

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(養徳小学校)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	授業を通じた自ら進んで学ぶ力の育成 (授業改善)	・各教科での言語活動及び問題解決学習の充実 ・全学級で授業公開 ・めあて、ふり返りの徹底	・児童の話す・聞く態度の変容 ・ジョイントプログラムの結果 ・ノート指導の確認
	家庭学習・自学自習の習慣化	・学校だより、HPによる保護者への啓発活動	・平日は学校での授業時間以外に平均何時間勉強していますか
	基礎・基本的な知識や技能の習得と活用	・ベーシックタイム(漢字・計算)の充実・徹底 ・調べ学習の習慣化	・ミニテストでの結果 ・ジョイントプログラム、学力定着テストの結果
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・さまざまな教育活動で話し合い活動や、協力して行う活動を十分に取り入れる。 ・地域の方や保護者と交流する活動を通して人と人とのつながりを大切にすることを育てる。	・友だちと協力していますか ・家族との会話する時間をとっていますか
	自他を大切に する態度の育成	・あいさつの励行、学校のきまりの徹底 ・いじめ、暴力の排除 ・自他ともに大切にする人権意識の向上	・自分からあいさつができていますか ・きまりを守れていますか ・友だちと仲良く過ごすことができていますか
健やかな体	運動及びスポーツの実践と体力向上	・遊びや部活動、スポーツを通じた運動の習慣化 ・運動を通してコミュニケーション力や論理的思考力を育てる。	・自分から進んで体を動かしたり遊んだりしていますか ・体力テストの結果 ・体育学習のふり返り確認
	安全教育的充実	・「生活安全」「交通安全」「災害安全」について教育活動全体を通して計画的に指導を行う。	・登下校での安全に気をつけていますか ・きまりを守れていますか ・避難訓練のふり返り確認
独自の項目	学校組織力の強化	・学校教育目標に基づく教育課程のPDCAサイクルの推進	・計画的に教育課程を進めていますか(教職員) ・校務分掌の取組の定期的な確認



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年10月7日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
話す・聞く能力を高めることの重要度は保護者・教職員共に高い数値であるが、教職員の実現度が昨年度より10%下回る結果であった。 家庭学習の習慣の定着は、保護者と教職員の意識の差に20%のずれがみられた。保護者7割、教職員9割。 漢字の読み書きや計算問題は、全市平均より3～5P上回っている。	・教職員の半数が入れ替わり、若年化したことで、定着していた授業形態を再度確認し直す必要が生じている。 ・家庭学習はどの学級でも課し、教職員の実現度は高い。しかし、保護者の子どもたちの家庭学習の見取りができていないことが分かる。 ・児童のアンケート結果から、基本的な問題を繰り返している」と回答する児童が92%あり、地道な努力をしていることがうかがえる。	・各教科等において、単元の展開と共に1単位時間の流れを明確にもつことや、ねらいに即したまとめを指導者自身が準備した上で、授業を進めるなど、基本に立ち返って授業づくりを行うようにする。(授業改善の推進) ・家庭学習の重要性を今一度、保護者に向けて訴えていることと回答する児童が92%あり、地道な努力をしていることがうかがえる。
児童適合度が昨年度より、若干上回っている。(95%→96.6%) 親子の時間の実現度は、昨年度より若干下回っている。(できている87.5%→84.2%、できていない12.4%→15.9%)	・各教科等において、話し合い活動を取り入れた授業構築を進めたり、力を合わせて行う活動を実践したりする中で、友だちと協力することの大切さを実感し、行動していることがうかがえる。 ・保護者アンケートでは、親子の時間の重要性は100%重要であると回答されているが、仕事や習い事などから時間が生み出せない状況がうかがえる。	・さまざまな教育活動の中に協力しなければ到達できない活動を継続して仕組むようにする。 ・保護者への啓発については、地域・保護者・学校が同じ目線で子どもたちを見守り育んでいることを今後も発信し続けていく。 ・自尊感情を高め自己肯定感を持たせることによって、自他を大切にすることができるようになることを目指す。
3項目ともに、昨年度より1.3～1.9%上回っている。	・児童の体力テストの結果は、全市平均とほぼ変わらない状況である。教職員の力量を高めていく必要がある。 ・安全教育については、年度を重ねるごとに訓練を受ける児童の態度が向上しており、研究の成果が表れてきている。教職員の振り返りにおいても、回数を追うごとに意識の高まりがみられる。	・人事異動に伴う教職員の入れ替わりによって、これまでほぼ達成していたことが目標値に達しない状況が生まれ、安全意識については、年度を重ねるごとに訓練を受ける児童の態度が向上しており、研究の成果が表れてきている。教職員の振り返りにおいても、回数を追うごとに意識の高まりがみられる。
教職員アンケートでの生涯体育につながる取組・指導の項目において、実現度の低い割合が、昨年度より高い。(5%→20%)	・児童の体力テストの結果は、全市平均とほぼ変わらない状況である。教職員の力量を高めていく必要がある。 ・安全教育については、年度を重ねるごとに訓練を受ける児童の態度が向上しており、研究の成果が表れてきている。教職員の振り返りにおいても、回数を追うごとに意識の高まりがみられる。	・人事異動に伴う教職員の入れ替わりによって、これまでほぼ達成していたことが目標値に達しない状況が生まれ、安全意識については、年度を重ねるごとに訓練を受ける児童の態度が向上しており、研究の成果が表れてきている。教職員の振り返りにおいても、回数を追うごとに意識の高まりがみられる。
登下校の安全については、95%以上の児童が気をつけていると回答しているが、昨年度は0%だったできていないと回答した児童が0.8%に微増している。	・児童の体力テストの結果は、全市平均とほぼ変わらない状況である。教職員の力量を高めていく必要がある。 ・安全教育については、年度を重ねるごとに訓練を受ける児童の態度が向上しており、研究の成果が表れてきている。教職員の振り返りにおいても、回数を追うごとに意識の高まりがみられる。	・人事異動に伴う教職員の入れ替わりによって、これまでほぼ達成していたことが目標値に達しない状況が生まれ、安全意識については、年度を重ねるごとに訓練を受ける児童の態度が向上しており、研究の成果が表れてきている。教職員の振り返りにおいても、回数を追うごとに意識の高まりがみられる。
「できている」教職員の割合は、76.4%(前年比-13.6%)	・教職員の若年化と共に講師の割合が高く、今後重点的に力を注いでいかなければならない項目である。	・常に意識化できるように、教職員に働きかけることを継続する。個別に働きかけが必要な場合も丁寧に関わっていく。



学校関係者評価	
評価日	平成28年10月26日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会 学校評議員による 改善に向けた支援策
・若い先生が増え、どの学級も児童に寄り添って授業を進めていることが大変よい。 ・授業参観時にどの学級の黒板にもめあてが提示されていた。子どもたちに学習に対する課題意識をもたせることは大切である。 ・基礎基本の力を身に付けるには、学校だけではなく家庭学習での繰り返しの学習が必要である。もっと、その重要性を保護者に向けて発信する必要があるのではないかな。	・ベテランの先生と若い先生の関わりを重要視して、学び合う機会を設定してはどうか。 ・家庭学習がよくできている児童のノートを他の児童に見せる場を設定することはできないものか。 ・参観日や保護者会などの機会に、よくできている児童のノートが保護者も見られるようにして、どのような家庭学習がよいのかを保護者も知るべきではないか。
・子どもたちが地域行事に参加できるような働きかけが必要である。地域の宝として、大事にされているという思いを伝えたい。 ・子どもだけでなく、保護者も地域行事に参加し、多くの先輩との関わりを深めたい。 ・褒められる経験が多い児童ほど、自尊感情は高いものである。地域でのふれあいの中で、自己有用感が味わえる機会を増やしたい。	・多くの地域の方が出入りする学校で、出会った大人と関わり合える催しが企画できないものか。 ・安全教育に力を入れて取り組んでいることを地域の者も参加できるように取組を企画し、子どもたちが学んだことを発信できる場があるので非常によい。
・先生方が子どもとともに運動場で遊んでいる姿や部活動でがんばっている姿がよく見かける。引き続き、子どもとともに先生方が運動を楽しんでいる姿を子どもたちに見せていくことが大切である。 ・体育学習の基本型を教員が共有することが大事である。体育が堪能な先生が若い先生方にノウハウを伝授してはどうか。	・地域団体の協力が必要なときには、いつでも申し出てほしい。子どもたちの体力向上につながる活動に協力できることはあるのではないかな。 ・登下校の安全については、子ども110番の家の協力や見守り隊の取組があげられるが、もっと人数を増やしていく方向で考えてみてはどうか。
・組織力を高めて学校教育目標に向かっていくためには、新しい風を吹かせること(若い教員のアイディアを取り入れる等)も必要ではないか。	・教職員集団として、何でも話せる、相談できる集団であれば組織として一丸となって前向きに取り組めるのではないかな。